

岡山県議会議員
防災・環境対策・スポーツ振興特別委員長

太田まさたか

おおた



プロフィール
昭和39年生まれ 55歳
《役職歴》土木委員会委員長、農林水産委員会委員長
総務委員会委員長、県監査委員
(選挙区岡山市北区加賀郡)

令和元年
秋季号
VOL.40

編集責任者:太田正孝 岡山市北区延友455 TEL.(086)201-5523

ラグビーワールドカップ 八強感動をありがとう!!

台風十九号で犠牲になられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災者の皆様にお見舞いを申し上げます。

さて、十月十八日から二十日までの三日間、岡山市で保健相サミットが行われました。岡山で開催された意義は高く、全ての人が負担可能な費用で保健医療サービスが受けられる「ユニバーサル・ヘルス・ガバレッジ」について議論が深められたことを、私は高く評価できると考えています。

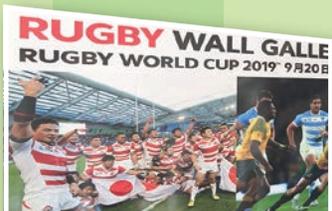
どの国においても人が安心して医療を受けられることは大切なことだからです。そして、私たちにとって夢も大切です。

こここのところの日本のトップアスリートたちの活躍は私たちに夢を持たせてくれます。今回のラグビーワールド

ドカップの日本の活躍もそうです。毎試合、ワクワクし、大きな感動をいただきました。八強入りまで、大きな夢を見させてもらいました。もう奇跡ではない、日本の実力が上がったことは、世界も認める所となったはず。

強くなっているのも、様々なことが重なったことであることは間違いなく、その一つに、科学的根拠に基づいた緻密な練習計画とその実践がありました。関係者の言葉から、そうしたことが伝わってきました。日本チームに心から感謝します。

来年は、いよいよ東京オリンピック・パラリンピックです。全英オープン優勝したプロゴルファー渋野日向子さん、MGCで優勝した女子マラソン



ホールロビーに盛り上げのための大型ポスターの掲示が



Jヴィレッジ ラグビー アルゼンチンチームのキャンプ地



岡山県議会議員
太田 正孝

ランナーの前田穂南さんら岡山県関係者の活躍も楽しみです。

結びに、子どもから高齢者まで質の高い暮らしが送れる岡山県になるように、県政の前進を図っていくことを皆様とお約束致します。



九月定例県議会

九月十八日、一般質問に登壇。今回は、消えていくお城の歴史の保存や物流ビジョンの再策定などを質問しました。主な内容は次の通りです。

1 南山城跡の調査結果の保存について

南山城跡は、山城として、斜面沿いに作られた堀が何本も並ぶ「畝状堅堀群」や曲輪周囲を人工的に切り崩した「切岸」などが、まとまって残っている。とても珍しく貴重なものだ。

ところが、小田川の付け替え工事で、この山城はすべて切り除かれることになっていく。この消えゆく山城について現地に幾らか形を残すとともに、築城された歴史についての調査をし、記録に残して欲しいという思いを、教育長に伝えた。

教育長からは、私の想いをしっかり受け止めた答弁があった。素晴らしい形で残してくれると期待をしている。

2 消費税増税への対応状況について

消費増税まで二週間を切ったというタイミングで、消費税増税関連の問題を取り上げた。

前回の消費税アップとは違い、軽減税率とキャッシュレス決済時のポイント還元策が導入されることになっていて、三か月前は、レジのA-1型等の補助制度への申込件数が想定を下回る状況だ。その後、関係部門が一斉懸命広報等に取組んでいるところだが、現在の中小小売店の準備状況がどうなのか、産業労働部長に訊ねた。

産業労働部長からは、レジA-1型等の補助金利用件数は二千件であるとの答弁があった。

私は再質問で、中小企業庁がレジ改修補助条件を九月末契約完了分まで広げたことを踏まえ、補助対象者の四割しか利用されていない状況が改善されるように、期限内最後まで働きかけて欲しいと要望した。

そして、現在、消費税増

税となった。制度の浸透と景気の維持を関係機関の力を挙げて行うことを、私は訴え続けたい。

3 次世代自動車について

次世代自動車の主要技術となるCASE(※1)を取り上げた。この「CASE」を取り上げた理由は、岡山県はこの中の「電動化」に力を入れているからだ。そして、他の三つの技術についても、対応すれば、「電動化」の開発スピードが上がるはずだ。

産業労働部長の答弁は、「CASE」については、少しハードルが高いというものだった。それが現実かと思った。私としては、自動運転の場所の提供等で、岡山での開発環境を作って行きたい。

※1:CASE 次世代自動車の主要技術は、「コネクテッド」、「自動運転」、「シェアリング」、「電動化」です。それらの英語の頭文字を取って「CASE」と呼ばれています。



4 自動運転実証実験の場所の提供



前の質問にも関係する「自動運転実証実験の場所の提供」について、前の六月定例会で「前向きに取り組んでいきたい」と産業労働部長が答弁して下さっていたので、思い切って直球二球の質問をした。

一球目は、自動運転の分野において、今後、「内閣府の事業等の国のメニューを活用しての実証実験」や「次世代通信規格『5G』を活用した実証実験」に取り組みお考えはあるかという質問だ。

二球目は、実証実験を企業、大学等が積極的に行えるように、警察、道路管理者等への手続きについて、ワンストップで出来るように県庁にワンストップセンターを設置する考えはあるかという質問だ。

どちらも他県では取り組まれていることだが、産業労働部長からそのままで機が熟していない旨の答弁があった。

実証実験は新見市、赤磐市、笠岡市でも行われているので、県の姿勢を明確に打ち出す意味においても、ワンストップセンターを設置して下さればと今でも思っている。この分野の調査をさらに進めていきたい。

5 物流ビジョンについて



石井前知事は、平成十年十二月定例会で、新たに策定した岡山県物流ビジョンに基づいて、西日本交通の要衝である本県の優位性を生かした施策を展開するなど、「新たな産業・流通県づくり」を強力に推進をしていきたいと、その決意を語った。

その物流ビジョンの計画期間は、平成二十二年度までで、そこに綴られていたことは、広島よりも優位性が高い。さらに新物流拠点を二か所整備する等の内容だった。

その計画期間から、もう八年が過ぎようとしている。広島県は、この間に、高速道路網が整備され、本県の置かれている状況も変わったとの議論が、平成二十九年十一月定例会でも行われた。

私自身、今でも岡山県の地理的優位性は高いと考えていて、進まなかった物流ビジョンについて、しっかりと見直しを図り、これからの岡山県発展につながるものを再策定すべきとの意見を持っている。

この思いを、知事につづけた。

知事からは、県はあらためて策定しないということだった。ただ、物流環境を良くしていかなければなら

ないことでは、思いは一致していることは感じることであったので、これ以上申し上げることを控えた。

さらに、道路環境の改善も取り上げた。幹線道路の慢性的な渋滞の解消を行うべきだ。とくに岡山―倉敷間である。渋滞が、交通の要衝という優位性を喪失させる状況を作りつつある。

そこで、この原因について突っ込んで触れてみた。

過去の物流ビジョンで提案されていた物流拠点が整備されなかったことで、県南において、現状の岡山県総合流通センター（岡山市北区大内田、早島町）への依存度が高まり、このセンターは手狭となった。それに加え、IC周辺での開発の規制緩和をしたことにより、早島IC周辺で物流倉庫等の進出が次々と行わ



れ、産業用車両が急増し、その結果、生活道まで通過車両が通るようになった。

県当局も、都市計画道路早島大砂線について現在二車線区間の四車線化整備を進め、そして、国道二号岡山バイパスの渋滞対策を動かすようとしているが、この地区の企業進出に対して、道路行政が追い付いていない状況である。

私は、これらを急いでいただくとともに、早島IC周辺の道路の改善をもっとすることを求めた。スッキリした答弁はいただけなかったが、ここが課題であることは県当局に伝わったのではないかと受け止めている。岡山県を元気にしていくためにも、必ず花が開くようにがんばります。



岡山県政の動き

岡山桃太郎空港の施設の充実を

九月中旬、二九八八年開港の岡山桃太郎空港の利用者数が三千五百万人を超えた。

最近の特徴は、国際線の利用者数が倍増し、約三十一万人になっていることだ。については、国際線ターミナルでの混雑が起こっている。また、アンケート結果を見ると、飲食やお土産コーナーの充実を求める声があることが明らかになっていった。

空港の経営状態も良いことから、今のうちに、利用者には喜ばれる様な施設の充実を図るべきである。



十月十九日放送の岡山県議会ナビ

ダムの事前放流が大きな課題となっているなか、新成羽川ダムの事前放流を、今年六月から中国電力が行っている。また、旭川ダムについても事前放流して欲しいとの声が国交省にまで届き、二〇二〇年度の概算要求で、実施調査費用が計上されている。この総事業費は約四百五十億円と聞く。大きな額だが、地域を守るためには、必要なことである。このことを十月十九日放送の岡山県議会ナビで取り上げた。他にも、東商業高校が家庭用ソースの共同企画をしたことなどについて話をした。



着眼点

移住定住策を進める上で

七月二十四日、秋田県から移住定住の委託を受けている秋田のNPO団体から伺ったお話で、ある一言を聞いて、思わず頷いてしまった。

どんな話か：

故郷に帰ろうと考えている定年間近な男性を口説いても、駄目ということが。奥様を口説くことができなければ、最終的には、戻って来て下さらないことが多いのではないかと話があった。これは考えさせられた。岡山県の移住定住策もどこに力点を置くべきか、考え直す時期にあるのではないだろうか。



岡山県内の市町村の紹介コーナー（東京）



てくてくてくまさたか

木堂ふるさとまつり

（庭瀬）
七月二十七日



防災空港物資センター

公開日に訪問
（岡山空港）
八月二日

空路で全国から届いた救援物資の中継拠点で岡山空港内に完成した。これで搬送時間の短縮ができる。



御田植祭（吉備津彦神社）

八月二日・三日



首都移転を考えるフォーラム

（きびプラザ）
八月十日



次世代自動車センター

（浜松商工会議所）
八月二十日



浜松商工会議所

浜松地域イノベーション推進機構が昨年四月に次世代自動車センターを設立した。この方から、電動化になると、約一万点の部品がなくなると言われている点について、新しい知見を得た。部品がなくなり、徐々に変わっていくというイメージを持っていった。
例えば、自動運転では、カメラやセンサー等増えるものもあるのだから、全体としては、一万点も減らないのではないかと分析を聞かせて頂いた。



ピストンとシリンダー

また、自分たちのコアな技術を磨いて新しく必要とされる所を見出すことが重要であるとの考えも伺った。紙面の関係で、報告はここまで

自動運転の場所の提供等について

（愛知県庁）
八月二十二日

愛知県の製造品出荷額は四十七年連続全国トップで、約四十七兆円。そのうち、自動車産業関連が約二十六兆五千億円。自動車保有台数全国トップ五百二十万台。道路実延長全国二位。自動車の利用割合、東京・京阪神の約二倍の六十％。全国一の自動車立県であるということであった。本場にビックリするような数字ばかりが並んでいる。そして、自動運転に対する期待としては、



説明を受けた愛知県庁

- 大きな市場としての期待
- 運転手不足に対する輸送手段の確保
- 高齢者等の移動支援
- 交通事故の削減
- 交通渋滞の解消等

日本において自動運転の定義も決まったことから、自動運転の市場化・サービスの実現化に加速的に進む見通しが立ちつつある。そのなかで、自動運転実証実験に係わる日本の環境についても、条件が揃いつつあるのである。

そこで、愛知県は、将来の自動運転サービスの実現を目指し、昨年度は、複数台の遠隔型自動運転車両を同時に走行させる実証実験や次世代通信規格「5G」を活用した実証実験を行うなど、最先端の実証実験を実施している。

また、驚かされたのが、愛知県内の約半数の基礎自治体で何らかの形で自動運転の実証実験に関わっていることである。意識が進んでいることに、ここでも驚かされた。

第二十回星空サマーコンサート

（ひらた旭川荘）
八月二十四日



第四十八回全国消防救助技術大会

（岡山市）
八月二十五日

全国から消防職員九百二十八人が集まり、日頃の訓練の成果を披露した。



陸上会場（岡山市中区桑野）



水上会場（岡山市南区豊成）

どんどん市場

（勝央町吉野地区）
八月二十六日



買い物の不便さ解消等のために、住民の力によって、買物、給油の拠点「どんどん市場」というお店を開設。現在、中山間地域を守るためになくてはならないお店になつていった。



次ページへ
続く

南山城跡説明会 九月八日

小田川と高梁川の合流点付け替え工事に伴い調査されている「南山城跡」の説明会が九月八日に行われ、私も参加した。尾根筋を通って侵入してくる敵を足止めする「堀切」や、味方武士の待機場所となる「曲輪」などが出土している。

また、斜面沿いに作られた堀が何本も並び「畝状堅堀群」や、曲輪周囲を人工的に切り崩した「切岸」、斜面を登ってくる敵を撃退する為のものともみられる多数の石なども発見されている。ここが合戦をする上でとても重要な場所であることを感じる。

しかし、合流点付け替え工事に伴い、山が丸ごと削り取られることになっている。歴史をどう後世に伝えていくのかが大きな課題だ。

遺跡の調査結果資料については、古代吉備文化財センターが管理整理していくことになっていて、報告は二年後にまとめられるけれども、出来るだけ良いカタチで残せるようになればと考えている。

(関連記事 一ページ目の九月定例県議会一般質問)



吉備中学校運動会 九月十二日



九月十二日

児島湖環境ふれあいデー (玉野市八浜) 九月十四日



九月十四日

秋の交通安全運動スタート (岡山県庁) 九月二十日



九月二十日

Jヴィレッジ(福島県) 十月八日

東京電力福島第一原子力発電所の事故で休止していた「Jヴィレッジ」が、今年四月二十日に全面再開した。

ここは少し前まで原発事故の収束作業の中継拠点であった。その時は、グラウンドの芝の上に厚さ四十cmの土砂を敷き詰め、二千四百台の駐車場となっていた。

再開に当たって、地中の給排水設備の取替工事を行った。

現在は、利用者を取り戻すために、様々な取組を行っている。一日も早く、再び、サッカーの聖地として光り輝いて欲しい。



いわき市久之浜地区 十月九日

東日本震災時、久之浜地区では、六・二メートルの堤防を超える津波よって、約七百戸が浸水し、六十八人が犠牲となった。

その対策として、堤防を震災前より一メートル高い七・二メートルにし、その内側には、高さ八・二メートルの盛り土の上

上にクロマツなどを植えた防災緑地を整備が済み、私が訪ねた日の午後から完成記念式典が行われた。また、浸水地域の区画整理事業も実施され、これから家が増えていくことが期待されている。



筑波メディカルセンター病院 十月九日

DMATの取組について調査。東日本大震災、鬼怒川決壊、竜巻の時の医師の動きについてお聞かせいただいた。



災害時に活躍したドクターカー

鬼怒川の改修工事現場 十月十日

五カ月年計画で約六百億円を投じられて整備するとの方針の下、今年が四年目。順調に改修工事が進んでいた。



堤の改修が終わった箇所 (鬼怒川)



工事概要板を堤に設置し、後世に伝える取組をしていた

川崎医科大学学園祭にて 三十二回目の献血 十月二十日



第三十回足守メロンまつり (近水公園) 十月二十日



二千三百個のメロンを求めて長い列ができていました。また、子どもたちの太鼓などが披露され、地域の人々が聴き入っていました。

編集後記

テレビでのサッカー観戦が最近の私の息抜き方法であるが、八月と九月の二カ月間、議員のインターンをしてくれた大学生とサッカーの話で盛り上がった。

なかでも、スペイン出身のイニエスタ選手が所属するチームのポゼッションサッカーの話になると、話が止まらなかつた。

ポゼッションサッカーは、ボールを回しながら、攻めるのだが、彼は攻撃的なサッカーの代名詞だと言う。「サッカーはショーだ。でなければサッカーではない」と話したあのバルセロナの伝説の人、ヨハンクライフは、このスタイルを愛し、多くのファンを作り、今もバルセロナはこのサッカースタイルを貫いている。

政治はショーではないけれども、ポゼッションサッカーで大切にしている攻めの姿勢は参考にしたい。

(M・O)